

2010年 3月 複合材料部門幹事会 議事録(案)

日時：平成22年3月19日(金) 13:00~17:00

場所：大阪市立大学国際交流センター

出席者：北條，合田，日下，大窪，高坂，野田，西藪，倪，倉鋪

資料1：2009年度事業報告案

資料2：収支予算計算書(H21/4/1~H22/3/31)

資料3：収支予算計画書(H22/4/1~H23/3/31)

資料4：「グリーンコンポ」WG H21事業報告書・H22活動計画書

資料5：「量産車用コンポジットの開発」WG H21事業報告書

資料6：国際交流セミナー決算書

資料7：複合材料部門委員会表彰規程

資料8：JCCM-1企業展示アンケート

資料9：第1回JCOM若手シンポジウム企画案

1. 2009年度事業報告(資料1, 資料2)

- ◆ 2009年度事業報告が行われた
- ◆ 報告書(資料1)の内容を確認
 - 3. 第1回自動車用途コンポジットシンポジウム
 - ◇ 場所「同志社大学」→「同志社大学寒梅館」に変更
 - 6. 国際学术交流 → 5. 国際学术交流
 - 国際学术交流の講演件数・参加者数を追加(材料学会3月号の国際学术交流記事を参照)
 - 5. 見学会 → 6. 見学会
 - 東レ・ショールーム, トラスホール 見学会 → 東レ愛媛工場見学会
 - 7. 小委員会等
 - ◇ ・部門幹事会・運営委員会 → 部門幹事会
 - 特集号の件数を追加
 - 量産車用コンポジットWG → 量産車用コンポジットの開発WG
- ◆ 収支予算計算書(H21/4/1~H22/3/31)
 - 会費収入については12月末まで
 - ACCM基金に関して検討を継続する
- ◆ 国際交流セミナー決算書(資料6)

2. 2010年度事業計画(資料1, 資料3, 資料4, 資料5)

- ◆ 事業計画の報告が行われた
- ◆ 国際学术交流(担当:倪)
- ◆ 224回:2010年5月~6月の金曜日,大阪または京都,調整中
 - 内容:午前中ビジネスミーティング,午後講演:交流会
- ◆ 225回:若手シンポジウム:企画中
 - 若手技術者,研究者,修士,博士
 - 8/19-20(木金)
- ◆ 226回:東レオートモーティブセンター見学会:企画中
- ◆ 227回:調整中
- ◆ 事業計画の確認(資料1)
 - 量産車用コンポジットWG → 量産車用コンポジットの開発WG
 - 連載講座の執筆者リストを追加
- ◆ 収支予算計画書の確認(資料3)

- 分科会開催支出の項目が消え，WG活動費（部門交付金）は委員会開催支出に含まれる

3. WG報告・計画（資料4，資料5）

- ◆ 「グリーンコンポ」WG H21事業の報告が行われた（資料4）
- ◆ 「グリーンコンポ」WG H22事業計画の報告が行われた（資料4）
 - H22年度から2年間の主査：大窪委員
- ◆ 「量産車用コンポジットの開発」WG H21事業の報告が行われた（資料5）
- ◆ 「量産車用コンポジットの開発」WG H22事業計画の報告が行われた（資料5）
 - 第2回自動車用途コンポジットシンポジウムを共催 → 「開催」または「協力」に変更
- ◆ WGの活動内容・計画を委員長がよく把握できるように，主査と委員長は連絡を取り合う
- ◆ WGの活動内容は，公開できる内容ならば公開していただく（主査が委員長と相談）

4. 複合材料部門委員会表彰規程（資料7）

- ◆ 表彰規程変更案が示された
 - シンポジウム賞は廃止され，論文賞，奨励賞が設けられる
 - 技術賞，功績賞の規程は前年までの規程をベースに作成
 - 前2カ年，前5カ年→（1～12月を1年で考える）
 - 受賞人数と選考委員人数の目安，提出書類についての詳細な情報を入れる
 - 初年度は21・22年度の2年分を対象とする

5. その他

- ◆ 賞状について — JCCMの印鑑を作る
- ◆ JCCM-1についての意見収集の場を
 - 部門委員に対してアンケートを実行してほしいという意見があった
 - アンケート案を作成する（大窪）
- ◆ 企画事業委員会の報告があった

平成 22 年度複合材料部門委員会 第 2 回幹事会議事録 (案)

日時：平成 22 年 10 月 27 日(水) 15：00～18：00 および平成 22 年 11 月 2 日(火) 10：15～11：15

場所：同志社大学大阪サテライト(10/27)，東レ オートモーティブセンター(11/2)

出席者：合田公一，大窪和也，野田淳二 (10/27，敬称略)

合田公一，高坂達郎，倉敷哲生，野田淳二，島村佳伸 (11/2，敬称略)

配布資料：

- ・平成 22 年度予算案 (修正版)
- ・第 227 回定例委員会について (メール写し)
- ・60 周年記念出版書籍 (執筆担当者案)，パワーポイントで説明 (10/27 のみ)
- ・JCCM-2 発表募集要項 (会誌用会告)
- ・平成 23 年度行事予定案
- ・第 60 期学術講演会・記念研究集会および展示会について (本部資料)
- ・JCCM-1 アンケート結果
- ・JCOM 若手シンポジウム開催報告 (11/2 のみ)

審議事項：

議事

1. 平成 22 年度予算について

- ・収入および支出額の変更を承認した。
- ・ACCM-6 の余剰金を国際会議積立金に充当する。
- ・IWGC-6 への協賛金 (10 万円) は，2010 年度国際会議積立金より支出する。

2. 台湾渡航 (ACCM-7) への旅費援助について

- ・学生への旅費援助に関して ACCM-6 実行委員会から要請があり，援助金の支払いを承諾した。対象者および援助額は次の通りとする。

対象者：指導教員 (proceedings 連名者) が当部門委員であり，かつ登壇者である学生 (ただし，社会人学生を除く)。部門メールで案内し，希望者のみを対象とする。

援助額：20,000 円／人

- ・上記 2 項目 (IWGC-6，ACCM-7) の支払時期について事務局に問い合わせる。

3. 第 227 回定例委員会について

- ・平成 23 年 1 月 25 日 (火) に大阪市立大学梅田サテライトで開催することを承認した。(講演 3 件，話題提供 2 件を予定する。日本接着学会関西支部および日本複合材料学会関西支部と共催)。

4. 60 周年記念事業について

- ・記念研究集会は木質系材料および高分子材料部門委員会と合同で行い，平成 23 年 5 月 24 日 (予定) に実施する。内容の詳細について現在打合せを進めている。

- ・神戸市立青少年科学館で行なわれる記念事業「展示会」への出品は、東レ・大鼓委員に協力を依頼した。
5. 60周年記念出版について
 - ・高木主査より提出された書籍（グリーンコンポジット）の執筆担当者案について基本方針を承認した。一部修正を60周年記念出版作業部に依頼する。
 6. JCCM-1 アンケートについて
 - ・JCCM-2 終了後、中間見直し期に提出する。
 - ・現状を部門委員に知らせるために部門委員会内で結果を公開することの良否を幹事会でメール審議する（11/2）。
 7. JCCM-2 の進行状況について
 - ・大窪幹事より、出納に関して、当部門委員会は関与しないことが企画事業委員会です承されたことの報告があった（10/27）。
 - ・野田庶務幹事（実行委員）より進捗状況について報告があった（11/2）
 8. JCCM-3 の開催について
 - ・JCCM-2 終了後の中間見直しに向けて、JCCM-3 の開催年や実施方法について幹事会内で議論すべきとの意見があった（10/27）。
 9. 平成23年度の行事について
 - ・行事予定案について概ね了承した。
 - ・田中和人主査より「第3回自動車用途コンポジットシンポジウム」は開催する予定であるとの回答があり、これを承認した（11/2）。
 - ・「第4回日中グリーンコンポジットセミナー」については継続審議とする。
 10. その他
 - ・倉敷幹事より平成22年度JCOM若手シンポジウムについて報告があり、報告書を会誌（国内外トピックス）へ掲載するように編集委員会に依頼する（11/2）。

以上

（文責：合田公一）

複合材料部門委員会 第 226 回定例委員会議事録

日時：2010年11月2日（火）11:15~17:00

場所：東レ株式会社名古屋事業場第一工場内 オートモーティブセンター

参加者：松田稔（浜松工技センター）、上田政人（日本大）、岡島いづみ（静岡大）、高坂達郎（高知工科大）、島村佳伸（静岡大）、倉敷哲生（大阪大）、木村南（東京高専）、岩下哲雄（産総研）、井上久弘（愛知工科大）、藤田浩行（兵庫県立工技センター）、山田章義（DIC化工）、安澤隆（DIC化工）、井上翼（静岡大）、矢代茂樹（静岡大）、岡田守弘（静岡大）、合田公一（山口大）、野田淳二（山口大）、静岡大学学生6名、東レ株式会社・山口晃司氏ほか7名、計31名（敬称略）

◇ビジネスミーティング（11:15~12:15）

資料1：平成22年度予算案

資料2：第227回定例委員会メール資料

資料3：第2回日本複合材料合同会議発表募集要項

資料4：平成23年度行事予定案

資料5：第60期学術講演会・記念研究集会資料

資料6：JCOM若手シンポジウム開催報告記

1. 平成22年度予算について

- ・平成22年度予算案について収入および支出額の変更を承認した。
- ・ACCM-6の余剰金は、平成22年度予算案の国際会議積立金に充当させることを了承した。
- ・IWGC-6への協賛金（10万円）は、国際会議積立金より支出することが了承された。

2. 台湾渡航（ACCM-7）への旅費援助について

- ・学生への旅費援助に関して ACCM-6 実行委員会から要請があり、援助金の支払いを承諾した。対象者および援助額は次の通りとする。

対象者：指導教員（proceedings 連名者）が当部門委員であり、かつ登壇者である学生（ただし、社会人学生を除く）。部門メールで案内し、希望者のみを対象とする。

援助額：20,000円／人

3. 第227回定例委員会について（担当：北條幹事）

- ・平成23年1月25日（火）に大阪市立大学梅田サテライトで開催することを承認した。（講演3件、話題提供2件を予定する。日本接着学会関西支部および日本複合材料学会関西支部と共催）。

4. 60周年記念事業について（担当：大窪幹事）

- ・記念研究集会は木質系材料および高分子材料部門委員会と合同で行い、平成23年5月24日（予定）に実施する。内容の詳細について現在打合せを進めている。
- ・神戸市立青少年科学館で行なわれる記念事業「展示会」への出品は、東レ・大鼓委員に協力を依頼した。

5. JCCM-2の進行状況について（担当：侃副委員長，野田幹事）

- ・会告案および進捗状況について報告があった。

6. 平成23年度の行事について

- ・行事予定案について概ね了承した。
- ・「第4回日中グリーンコンポジットセミナー」については継続審議とする。

7. その他

- ・倉敷幹事より平成22年度JCOM若手シンポジウムについて報告があり、報告書を会誌（国内外トピックス）へ掲載するように高坂編集委員より編集委員会に依頼する。また文面について若干の修正を依頼した。

◇研究討論会・施設見学会（13:00-17:00）

(1) 挨拶（13:00-13:10）

合田公一部門委員長および山口晃司氏（東レ株式会社）

(2) 話題提供1（13:10-13:40）

「フェムト秒レーザーパルスによるCFRP板への高精度穴あけ加工」

静岡県浜松工業技術センター 松田稔 氏

(3) 話題提供2（13:40-14:20）

「CFRPの圧縮強度と衝突エネルギー吸収特性」

日本大学 上田政人 氏

休憩（10分）

(4) 話題提供3（14:40-15:20）

「超臨界流体を用いるCFRPのリサイクル」

静岡大学 岡島いづみ 氏

休憩（10分）

(5) 施設見学会（15:30-17:00）

オートモーティブセンター内を見学した。

以上

平成 2 2 年度事業報告(案)

自 平成 22 年 4 月 1 日
到 平成 23 年 3 月 31 日

1. 定例委員会

回数	年月日	開催場所	担当委員	備考（共催など）	出席者数
224	平成 22 年 6 月 11 日	近畿大学農学部	大窪	日本木材加工技術協会 WPC 部会	23
225	平成 22 年 8 月 27, 28 日	城崎大会議館(兵庫県豊岡市)	倉敷, 西簀		25
226	平成 22 年 11 月 2 日	東レ株式会社名古屋事業場第一工場内 オートモーティブセンター	島村		31
227	平成 22 年 1 月 25 日	大阪市立大学文化交流センター	北條	日本接着学会関西支部および日本複合材料学会関西支部	

第 2 2 4 回定例委員会

- ・ビジネスミーティング
- ・研究討論会

- (1) 「ウッドプラスチックの概要」 高谷政広（近畿大学）
- (2) 「日本材料学会複合材料部門委員会の紹介，およびグリーンコンポジット用植物系天然繊維の強度評価」 合田公一（山口大）
- (3) 「ウッドプラスチックの新規技術事例紹介」 伊藤弘和（ヤマハリビングテック）
- (4) 「グリーンコンポ WG の活動概要，および事例紹介：圧密竹繊維マットを用いたスタンパブルシートの製作におけるニードルパンチングと **spring-back** 加工の効果」 大窪和也（同志社大）

第 2 2 5 回定例委員会

- ・研究討論会
- 「CFRP 等の各種先進複合材料の設計・評価」 鵜沢潔（東京大）

第 2 2 6 回定例委員会

- ・ビジネスミーティング
 - ・研究討論会
- (1) 「フェムト秒レーザーパルスによる CFRP 板への高精度穴あけ加工」 松田稔（静岡県浜松工業技術センター）
 - (2) 「CFRP の圧縮強度と衝突エネルギー吸収特性」 上田政人（日本大）
 - (3) 「超臨界流体を用いる CFRP のリサイクル」 岡島いづみ（静岡大）
- ・見学会（東レ株式会社名古屋事業場第一工場内 オートモーティブセンター）

第 2 2 7 回定例委員会

- ・ビジネスミーティング
 - ・研究討論会
- (1) 「CNF 強化型 CFRP 積層板の成形とその特性評価」 荒井政大（信州大）
 - (2) 「カーボンナノチューブと分子との接着を制御する」 藤ヶ谷剛彦（九州大）
 - (3) 国際会議情報 1 「IWGC-6 における接着関係の研究について」 合田公一（山口大）
 - (4) 国際会議情報 2 「接着国際会議における複合材料研究」 岸肇（兵庫県立大）
 - (5) 「ナノ・マイクロ構造制御による高性能 CFRP の開発」 釜江俊也（東レ）

2. 第1回日本複合材料合同会議 (JCCM-2)

- ・ 日時： 2011年3月16日～18日
- ・ 場所：東京大学生産技術研究所
- ・ 主催：日本材料学会，日本複合材料学会
- ・ 実行委員会：委員長：杉本直 (JAXA)，幹事：倪慶清，野田淳二 ほか
- ・ 特別企画：
- ・ 講演件数：
- ・ 登録者数：
- ・ 表彰：

3. 6th International Workshop on Green Composites (IWGC-6)

- ・ 日時： 2011年9月8日～10日
- ・ 場所：Kumoh National Institute of Technology (韓国)
- ・ 主催：Kumoh National Institute of Technology ほか，部門は協賛扱い
- ・ 講演件数：34件 (口頭)，71件 (ポスター)
- ・ 参加者数：150名

4. 第1回自動車用途コンポジットシンポジウム

- ・ 日時： 2010年12月11日
- ・ 場所：同志社大学・寒梅館
- ・ 講演件数：18件
- ・ 参加者数：70名 (?)

5. ACCM-7

- ・ 日時：2010年11月15～18日
- ・ Taipei International Convention Center (台湾)
- ・ 講演件数：
- ・ 参加者数：？

6. 国際学術交流

- ・ 清華大学および逢甲大学 合同研究会
- ・ 日時： 2010年11月19日
- ・ 場所：新竹市および台中市
- ・ 講演件数：計7件
- ・ 参加者数：11名 (清華大学)，19名 (逢甲大学)

7. JCOM 若手シンポジウム

- ・ 日時： 2010年8月27，28日
- ・ 場所：城崎大会議館
- ・ 講演件数：19件
- ・ 参加者数：25名

8. 小委員会等

- ・ 幹事会
開催回数：5回 (5/28, 6/11, 10/27, 11/2, 1/25)
- ・ JCCM-2 実行委員会
開催回数：1回 (11/23)

9. 研究ワーキンググループ

- ・ グリーンコンポジットWG (WG 報告資料参照)

- ・ 量産車用コンポジットの開発WG (WG 報告資料参照)

10. 会誌「材料」関連

- ・ 講座

掲載号： 2010年11月号～2011年2月号

論文数： 5件

講座：バイオコンポジットの現状と将来展望

1. 単一素材から成るグリーンコンポジット —グリーンコンポジットの現状と将来展望(1)—
高木 均氏 (徳島大学)
2. 植物系天然繊維の強度評価 —グリーンコンポジットの現状と将来展望(2)—
合田 公一氏 (山口大学)
3. セルロースを強化材とするグリーンコンポジットの現状と将来展望
板倉 雅彦氏 (ダイセルポリマー(株))
4. バイオマスの炭化によるバイオコンポジット —ウッドセラミックスの現状と将来展望—
岡部 敏弘氏ほか (青森県産業技術センター)
5. 医療用バイオコンポジットの現状と将来展望
東藤 貢氏 (九州大学)

平成 2 3 年度事業計画（案）

自 平成 2 3 年 4 月 1 日
到 平成 2 4 年 3 月 3 1 日

1. 予定される委員会

開催予定日	会合名	開催予定場所	備 考
平成 23 年 5 月	第 228 回定例委員会	大阪または京都	
平成 23 年 8 月	第 229 回定例委員会	関西地区	
平成 23 年 10 月	第 230 回定例委員会	未定	
平成 24 年 1 月	第 231 回定例委員会	未定	
随時開催	幹事会, JCCM-3 実行委員会等	未定	

2. 委員会の企画により開催が予定されているシンポジウム、討論会、講演会、見学会等

開催予定日	名 称	開催予定場所	備 考
平成 23 年 5 月	60 周年記念行事 合同講演会		
平成 23 年 8 月	第 2 回 JCOM 若手ワークショップ		
平成 23 年 月	見学会		
平成 23 年 月	国際学術交流	タイ,マレーシアなど東南アジア	
平成 23 年 月	第 4 回日中グリーンコンポジット交流セミナー		
平成 32 年 月	第 3 回自動車用途コンポジットシンポジウム		
平成 23 年 月	JCCM-3		

複合材料部門委員会表彰規程

- 第1条 本部門委員会は、複合材料技術の振興を目的として、複合材料部門論文賞(JCOM Award for Scientific Papers, 以下, 論文賞), 複合材料部門技術賞(JCOM Award for Innovative Technologies, 以下, 技術賞), 複合材料部門功績賞(JCOM Award for Academic Contribution, 以下, 功績賞), 複合材料部門奨励賞(JCOM Award for Promising Researchers, 以下, 奨励賞)を設け、本規程によって授与する。
- 第2条 論文賞は、前2カ年以内に日本材料学会会誌「材料」に掲載された論文の中で、複合材料に関する研究開発に顕著な貢献をし、学術的あるいは技術的に特に優秀と認められる論文の著者に対して、毎年、**翌年度**の定例委員会において授与する。
- 第3条 技術賞は、前5カ年以内に実用化された技術の中で、複合材料に関する工業技術の進歩発展に顕著な貢献をし、将来の発展が期待できる技術開発を行った組織に対して、毎年、**翌年度**の定例委員会において授与する。
- 第4条 功績賞は、複合材料技術の発展および本部門委員会の活動に対し、長年にわたって顕著な功績があった本部門委員会委員個人に対して、毎年、**翌年度**の定例委員会において授与する。
- 第5条 奨励賞は、複合材料に関する研究開発に顕著な業績をあげ、将来の発展が期待されると認められる満40歳未満(授賞年度の4月1日現在)の個人に対して、毎年、**翌年度**の定例委員会において授与する。
- 第6条 本賞は賞状とし、副賞を添えることができる。
- 第7条 授賞は次の方法で決定する。
1. 応募は自薦・他薦を問わないが、推薦者は本部門委員会委員とする。
 2. 推薦者は本部門委員会指定の様式による**推薦書1部**と**参考資料5部**を部門委員長宛に提出する。
 3. 受賞候補者の選考は選考委員会にて行う。選考委員長および選考委員の指名は部門委員長が行う。
 4. 選考委員会は応募者の中から受賞候補者を選考し、部門委員長に報告する。
 5. 部門委員長は受賞候補者について、幹事会にはかり、授賞の可否を決定する。
- 第8条 各賞とも、選考委員会あるいは幹事会にて、適切な受賞候補者がいないと判断された場合、その年度の授賞は行わない。

付則

1. 選考委員は委員長を含めて5名程度とする。
2. 各賞とも1件/年を原則とし、最大2件/年とする。
3. 応募に必要な参考資料は下記のとおりとする。
 - 論文賞： 論文別刷(コピー可)
 - 技術賞： 技術資料(パンフレット, 論文等)
 - 功績賞： 経歴書, 業績書, 論文別刷
 - 奨励賞： 経歴書, 業績書, 論文別刷